

# 令和3年度社会福祉法人にしあがつま福祉会事業計画

## はじめに

昨年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、当法人でも感染症予防対策に力を入れてきました。皆様のご協力により当法人では今のところ予防できております。

また、平成30年度より「にしあがつま福祉会活性化基本方針」に基づき組織の再構築や職員の教育等に力を入れてきました。

一方、地域包括ケアシステムの中での社会福祉法人の役割はより重要なものとなってきています。

上記を踏まえ、令和3年度は

- ①感染症予防対策の徹底
- ②「にしあがつま福祉会活性化基本方針」に基づき、財政の安定化とサービスの質の向上
- ③地域や関係機関との連携

を重点項目として事業を展開していきたいと思っております。

## <にしあがつま福祉会活性化基本方針>

### 外に対して [利用者をより意識したサービスの提供]

- ・より住民に寄り添った地域包括ケアの構築
  - ①現サービスの維持と向上
  - ②看取りの普及、啓発活動
  - ③地域の理解を高めるための情報提供
- ・より充実したサービスの提供と、新しいサービスの検討
  - ①利用者や家族に耳を傾ける
  - ②各種サービス間の連携と営業展開
  - ③グループホーム等の検討
- ・より自立した法人への成長と地域貢献
  - ①経営健全化
  - ②財務状況の情報公開
  - ③地域貢献事業

### 内に対して [各々の役割を意識した職場づくり]

- ・新たな役割分担の明確化
  - ①理念の浸透
  - ②組織の再構築
  - ③職務分掌の再検討
- ・新たなキャリアパスの明示と人事考課等の構築
  - ①教育訓練計画の作成
  - ②人事考課の手法再検討
  - ③学校等と連携した人材確保計画
  - ④奨学金の再検討
- ・より意思の疎通を高めた協力体制の構築
  - ①職員のコミュニケーション力の向上
  - ②行政との連携
  - ③関係機関との連携

## I、特別養護老人ホームからまつ荘運営方針

(介護老人福祉施設・短期入所者生活介護・介護予防短期入所生活介護)

(目標)

- 1、職員教育等による介護サービスの質の向上（個人レベル）
- 2、介護における職員間の共通認識と意思統一をされた組織的なケアの実践（棟レベル）
- 3、利用者に寄り添うケアの実践と安全で丁寧な介護の実践（全体レベル）
- 4、落ち着いて、安全安心して過ごしていただくケアの実践（短期入所）
- 5、施設稼働率の改善、及び介護報酬各種加算の算定による利益の向上

(取組)

- ① 施設内外の研修会参加及び個別のスーパービジョン、自己研鑽等を通じて職員一人一人の介護職としてのスキルの向上を図り、それをケアの現場で実践し活かしていく。
- ② 日々の申し送りや棟別の会議等を通じて報告、連絡、相談をより強固なものにし、どの職員が担っても組織として統一されたケアの実践を図っていく。
- ③ 令和元年夏に、ご家族様満足度調査を実施した。その結果全般的にはプラスの評価を頂いたが、その中で
  - 会話、声掛けを通じて、なるべくコミュニケーションを多くもってほしい
  - 安全で丁寧な介護をお願いしたい
  - 延命的な治療は希望せず、看取りケアを希望したいというご意見が多かった。そのことを踏まえ、利用者に対しての声掛け、コミュニケーション、係わりを多く持ち、寄り添うケアの充実を図るとともに、安全で丁寧な介護の実践を図って行く。
- ④ 短期入所においては、在宅からの利用のため、特に認知力低下の強い利用者様においては、環境の変化等で、落ち着かず、不穏になりやすい。そのようなことから、安全に怪我なく落ち着いて、安心して過ごして頂くケアの実践を図っていききたい。
- ⑤ 昨年度の特養における稼働率は74, 63人／1日平均（令和3年1月までの実績）にて、目標の76人／1日は達成できなかったが、令和3年度の目標値としては、前年度同様の76人／1日平均とする。

「からまつ荘施設稼働実績」

平成30年度	72.1人／1日平均
令和元年度	75.4人／1日平均
令和2年度	74.6人／1日平均（R2.4～R3.1の実績）

また、令和3年度報酬改定においては基本サービス単価は増えるものの、現在算定している栄養マネジメント加算が廃止となるため、実質的にはプラスマイナス0となる。

収入を上げるためには各種加算の算定が必須であるので、算定できる加算はしっかりと取っていく。

#### <稼働率向上のための具体的な取り組み>

- ・空床ができれば、2週間以内に新規入所を受けられるよう調整をしていく。
- ・職員の体調不良等による長期離脱にならないよう、各自健康管理に留意するとともに、利用者の日頃の健康管理にも留意し、異常の早期発見、早期治療に繋げて行く。
- ・主治医との連携の下、入院者においては定期的に退院の見通しの有無等、連絡調整を密に図っていく。また入所者のご家族からも退院の見通し等を医師に積極的に働きかけていただく。
- ・延命的な治療を望まず、施設での看取りご希望のご家族においては、なるべくその意思が反映されるよう、看取り介護の体制を整備する。

なお、短期入所生活介護においては、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、利用をお断りせざるを得ないこともあり令和2年度の稼働実績は令和元年度に比べ減少した。

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症対策は継続するので、稼働率は前年度同様の6.5人を目標とするが、今後の感染症の動向次第と捉えている。

#### 「短期入所生活介護稼働実績」

平成30年度 8.2人／1日平均

令和元年度 7.7人／1日平均

令和2年度 6.5人／1日平均 (R2.4～R3.1の実績)

## II、からまつ荘通所介護事業所

(通所介護事業・総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業))

### (目 標)

- 1、一日平均利用者様数16.2人を目標とします。
- 2、協力し合い、より良いサービスを提供します。
- 3、ご利用いただくのが楽しみになるような職員の対応、接遇マナー向上に努めます。

### (取 組)

- ① 新型コロナウイルス感染予防に注意しながら、サービスの提供を行います。
- ② 新しい生活様式を踏まえ、口腔機能訓練、運動機能訓練を行いADLの向上を目指します。
- ③ 始業時、終業時に話し合いを行いサービスの向上を目指します。

### Ⅲ、からまつ荘訪問介護事業

(訪問介護事業・総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業)・障害福祉サービス・ホームヘルプサービス事業)

(目 標)

利用者様との信頼関係を大切に、自立支援を目標とし専門性を持ち、心あるサービスの提供をおこなう。

(取 組)

- ① 訪問前後の感染症対策の徹底(持ち込まない、持ち出さない)
- ② 情報の共有、利用者様の変化の早期気づき、関係機関との連携
- ③ キャンセルのみの対応ではなく代替日の提案

### Ⅳ、からまつ荘居宅介護支援事業

(居宅支援事業所)

(目 標)

「本人、家族に寄り添い、地域、関係機関及び医療と連携を密に図り、本人、家族にとって最も望まれる社会資源を活用することにより、在宅での生活が可能な限り続けられるよう支援する」

(取 組)

- ① 主治医、関係機関の専門職、地域と連携し、本人及び家族に寄り添ったケアマネジメントを実践していく。
- ② 本人、家族からのサービスに対する評価を各事業所に伝える。
- ③ 利用者数は115名を目標とする。
- ④ 受講資格のある介護支援専門員においては、主任介護専門員終了証明書を取得し、特定事業所加算Ⅲが算定できるようにする。
- ⑤ 介護支援専門員同士で情報を共有し、困難事例等チームでより良い方向性を模索、検討して適切な対応を行う。